

## 2 研究の実際

## (2) 本研究における「協働的な学び」の構想

本研究では、以下のように「協働的な学び」を構想し、実践しました（図 1）。

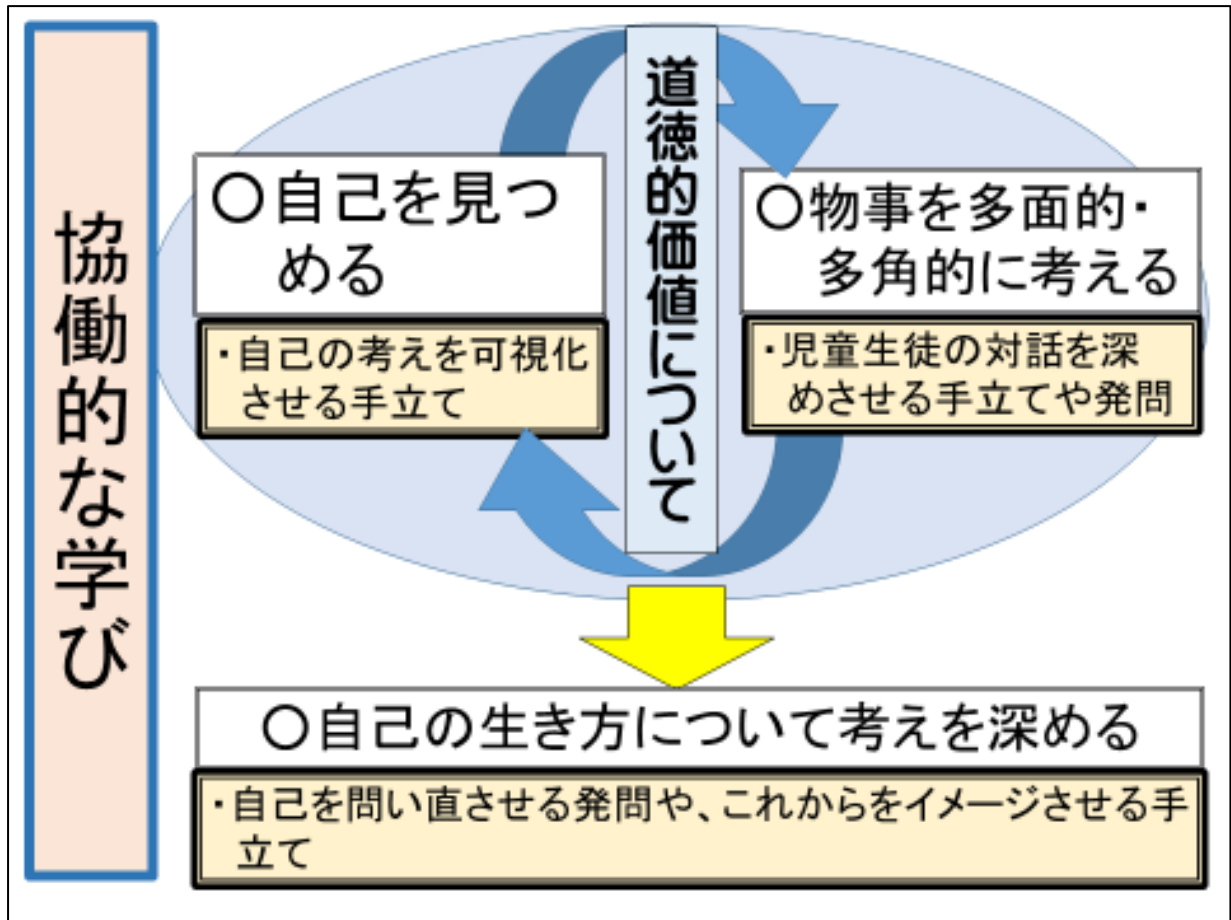


図 1 協働的な学びのイメージ

自己を見つめる場面においては、児童生徒が考えたことや感じたことを表出し、自己の考えを認識できるようにするために、道徳的価値についての自己の考えを可視化させる手立てを取り入れます。物事を多面的・多角的に考える場面では、他者との対話を行うことで児童生徒が自身の考えを深めたり、感性を磨いたりするために、児童生徒の対話を深めさせる手立てや発問の工夫を行います。この2つの場면을往還しながら、児童生徒は道徳的価値について考えや理解を深めてくことができると考えました。そして、このように道徳的価値についての考えや理解を深めさせた上で、最後に自己の生き方について考えを深めることに取り組みます。この場面で教師が児童生徒に、自己を問い直させる発問をしたり、自己のこれからのイメージさせる手立てを取り入れたりとすることで、児童生徒は納得解をもち、自己のこれからの生き方について深く意識するようになると考えました。

このように、往還的な対話活動を通して、自己の生き方について考えを深めさせる学びを「協働的な学び」として捉え、研究を進めることとしました。